おひざのうえで 2023②

（副園長の子育て応援通信）

「100 年･･･そしてまた一歩」

せんりひじり幼稚園　　副園長　安達かえで

「せんりひじり幼稚園」の姉妹園である「ひじり幼稚園」が創立100周年を迎え、先週、皆様に記念誌と記念のお菓子を配らせていただきました。（「おいしかったよ」「100のところを食べたよ」「ひじりのマークをたべたよ」と子どもたちが感想を言ってくれました）

ひじり幼稚園は園長の祖父の安達晋が創設し、園長の父の安達研が引き継いだ後、1966年千里ニュータウンの開発が始まる時に、せんりひじり幼稚園（当時は新千里幼稚園）を開園しました。私がせんりひじりに入ったのが1985年です。今から思うとまだ創立19年しか経っていない時だったのですね。結婚と同時に、勤めていた神戸市の小学校を辞めて、せんりひじりの年長組の担任として入りました。5年生の担任からいきなり5歳児を相手にするわけですから最初は戸惑いましたが、何も飾らずに体全部で自分の思いをぶつけてきてくれる5歳児が可愛くて愛おしくて新鮮でした。その後は出産を機にプレイルームを始める事になります。長年にわたり、未就園の子どもと触れ合いその保護者の子育てを支えていくことが大きな喜びになりました。

その頃、幼児教育は数々の節目を迎えます。高度経済成長時代から、世界経済のトップに立った日本の教育は、多くの知識詰込みから、自ら考える子どもへと教育の流れが変わります。その教育が右往左往し、「指示を与えてはいけない」「自由にさせなければならない」という極端な議論までなされることもありました。そんな中でも、共通するのは、先代の園長も今の園長も、いち早く国等の会議で決まった情報を自園に持ち帰り、せんりひじりの教育保育の方向性を模索し研修を重ね、よりよい教育保育を追求し続けたことだと思います。そんな環境にいて、保育を楽しみながら子どもたちのためにいい保育をしていきたいという仲間に恵まれて、せんりひじりも今年で57年目。面白い園になりました。

今回100周年記念誌の発行に力を入れてきましたが、写真や記録を見ながら、道なき道を歩みながら「子どもにとって」最善の教育を追い求めてきた先人たちの熱い思いを感じて、大切に引き継いで行きたいと思いました。100年という節目に居合わせることができたことはありがたいことですし、その100年の道の上に自分も立っていることは感慨深く思います。

今まで受け継いだバトンをもって精いっぱい走ってきましたが、これからの人たちはその先をどのように創っていくのでしょうか。子どもたちの未来のために幸せな100年でありますように。